

## 近隣の自然の変化に目を向ける No. 58

「秋の到来を感じさせる花々:

Flowers you may feel the arrival of autumn」

2021年9月16日

9月も半ばとなり秋の気配が確実に深まりつつある。皆さんは秋の到来を何によって感じていますか？近隣の植物に感じた日本の秋を4枚の花の写真でお示します。

先ず、秋の草木を意味する漢字の萩。芦花公園内には萩のアーチがあり、秋が深まると満開の萩のトンネルができる。園内を歩いていた時、突然甘く上品な香りに包まれた。脇に目を向けると満開のオレンジ色の金木犀の花が一斉に「今、秋の真ん中にいるのよ！」と伝えてくれた。

名にし負う秋明菊は秋の到来を実感させてくれる花だ。日本原産であるのがうれしい。

ナデシコ（撫子）は秋の七草の一つ。今年の9月から .WE リーグが開幕したが、なでしこジャパン（女子サッカー日本代表チームの愛称）として世界で活躍してほしい。

百日草は、百日紅（さるすべり）と同様、その名の通り初夏から咲き始め、100日過ぎた秋に入ってもしっかりと咲き続けるお馴染みの花だ。子ども頃、庭に毎年咲くのを見ていたので希少性が感じられず、注目することがなかった。ところが芦花公園の体操仲間の一人が百日草ファンであることを知り、意識して見始めた。すると、放射状に広がった花で、形に乱れがなく、長持ちするので庭を明るくしてくれる素敵な花である事が分かった。目からウロコが落ちる体験であった。平凡な娘（Mediocre girl）と思っていたのが器量良しで働き者の娘に見えて来た。

松葉牡丹も春から夏を越して咲き続け、どこにでも見られる花だ。最近ではポーチュラカという名で売られており、庭先や道路沿いに植えられている。昔ながらの花だが、多種多様な色や形の栽培種があり、愛らしく丈夫なので広く愛されている。

下段の4つの花は、典型的な秋の花。6方向に真っ白な刃形の花を付けたタマスダレ（玉簾）。集合して咲くのですぐに目に付く。名の由来：白い小さな花を「玉」、細長い葉の集まりを「簾」に例えている。花言葉「純白な愛」はぴったりだ。

オミナエシ（女郎花）は秋の七草の一つ。名の由来：近縁種オトコエシ（男郎花）に対して、女性らしい印象を与えるオミナエシ（女郎花）という説。

マツリカ（茉莉花）は、今年初めて見た花。検索して名が分かり驚いた。何と、ジャスマンの中国名。ジャスミン茶は緑茶かウーロン茶の茶葉に茉莉花を混合したものである。

ボタンクサギ（牡丹臭木）は、花は牡丹のように美しいが、枝葉に独特の匂いがあるため、残念な名前になった。実際の姿は、写真のように美しいのでカシミア・ブーケという別名とも呼ばれている。